

建築主：株式会社 オークハウス  
設計：笠掛伸建築設計事務所  
施工：株式会社 ダイニチ  
所在地：船橋市中山3-19-2

入賞

住宅の部

## 街に寄り添い、人に寄り添うシェアハウス ソーシャルレジデンス船橋

築約45年の社員寮を改修して、シェアハウスとして再生させたものである。

計画地は都心から比較的アクセスが良く、駅前には商店街、周辺環境は道路幅員2m~4m程度の都市のスケールとしては小さい密集地である。既存建物は高さ間口奥行が大きく、アプローチも幅員6mで周辺との関係性を分断していた。計画ではアプローチ両端に植栽の緩衝地帯を設け、ファサードを水平に分断する庇から下のデザインを強調することで街のスケールに寄り添うことを目指している。

内部は仕上材に木や自然素材を多用して暖かみを持たせた。また個々の居住空間に加えて、住民同士がコミュニティを育むためのキッチンやライブラリーを共有部分として併設した。暮らすことの心地よさをシェア出来るように配慮している。

発注側も実際入居していて居住者をリードできるようになっているのも印象に残った。居住者は社会人、学生をが主流で外国人の割合も3~4割に達するそうだ。一般的にひとり暮らしを始めると手続きや準備が煩雑だが、かばんひとつから入居できるのも魅力だ。現状は居住者に高齢者はいないそうだが、一定の設備が整えば健康な高齢者が住まうといった、新しい居住形態も可能なのではないだろうか。

(藤本 香)



街のスケールを引き込むことを意図したアプローチ空間とファサードデザイン。



住民が集うラウンジは、オーク材のフローリングと白を基調とした大らかなデザインとしている。  
(撮影/山本 育憲)

### 選考の基準

次の事項を選考の基準とし、総合的に審査します。

- デザイン性に優れていること
- 安全で快適な建築空間を創出していること
- 防災への配慮がなされていること
- その他、独自の取組や提案がなされていること
- まちなみや周辺の景観と調和がとれていること
- 環境負荷の低減に配慮していること
- 施工上優れていること

※建築基準法等の諸法令に適合しており、かつ近隣等との紛争が生じていないこと等も求められます。

### 千葉県建築文化賞検討会議

【敬称略 委員は五十音順】

委員長 北原 理雄：千葉大学名誉教授

委員 圓崎 直之：一般社団法人千葉県建築士会名誉会長

副委員長 岩村 和夫：東京都市大学名誉教授

委員 岡部 明子：東京大学大学院教授

委員 夏目 幸子：建築家、NPO住まい・まち研究会理事長

委員 藤本 香：建築士、千葉大学非常勤講師

千葉県建築文化賞は、多くの皆様の協力に支えられ、回を重ねてまいりました。

その間、県下の広い地域にわたり、137の建築物が受賞され、

それぞれの地域に根付いています。

第25回の作品募集は、平成30年夏頃行う予定です。

皆様方の御応募をお待ちしております。



千葉県  
マスコットキャラクター  
チーバくん